

せ ん

ぼ 通信 No.71

ば・あ・や・の・う・け・う・り

「恩と怨」

「おんとおん」 ひびきは同じなのに意味は天と地ほど違いますね。 25年前ある人から「怨は水に流せ 恩は石にきざめ」と。私には、流したくても流れない…心の川底に落ちた、砲丸のような怨念がありました。小学校に入学する前から、母がボケるまでの60年間、憎悪の目を向けられ続けました。

そんなに憎いなら生まなきゃ良かったのにと。 ある時から、どうせ私は愛人の子…と。介護中、「ありがとう」と、毎日何回言われてもこわくて目を見ることもできませんでした。それが、6月の満月の夜、くず湯を食べさせていた時、長年の怨みが、奇跡のようにすーっと消えて、母の人生が浮かんできました。大好きだった二瀬中の教師を7年で辞めて、店屋の母ちゃんとして苦勞してきた姿…それは、一番見てきた母の姿でもあったのです。涙がこぼれてきて…今までがんばってきたね、世話になったね…どうもありがとう…と、頭をなで、母の目を見て言うことができました。

それから40日後の7月16日93歳で永眠…介護をさせてくれて…ありがとう…です。

二瀬地区にあった、ソフトボール愛好会が、「二瀬連合」として一つに合流して、今春から活動。「二瀬中が閉校でなくなっても、二瀬の名前は残しておきたくて、『二瀬連合』になった…」と。20代～40代のメンバー30数名、朱色というか、真っ赤なユニホーム…。すごい色なのね～「はい…色だけでも気合が入るようにと…ハッハッハ…」。コロナと長雨で、モヤモヤ100%の時期…こちらもうフフ…。地域のためにも何かを…と、7月教育委員会の了解の下、閉校になった小学校と中学校の除草作業のボランティア。母校への想いも、まだ熱い…。協力しあって…仲間同士のすがすがしい汗だったかも…。

遅れながらもようやく夏休みに…。旅行や里帰り、東京以外はどこへ行ってもいいとか…。でも、出かける気にはならないようです。コロナの病気はこわいけど、それ以上に、感染してまわりに迷惑かけられない…。帰ってこないで… 行かないで…「大きな箱ちょうだい。帰ってこない息子に米を送るの」と、お客様が。せつないですね…孫ちゃんにも会えない。でも、宅配便さんは、お米以上に重たい「親心」も一緒に運んでくれますよ…ありがたいですね。

君の住む街の夜景が映されて
ひとつの灯をばもとめ見つめる



秋田県・鳥海山 8月 By Daisuke

〒963-1245 郡山市田村町柝山神字千穂128 TEL: 024-975-2415 FAX: 024-975-2466

2020・8・1

遠藤商店

編集: ミサ子 mail:kaikuu-0305@ezweb.ne.jp